

和歌山県「キャリア・パスポート」の活用について

和歌山県教育委員会義務教育課

和歌山県「キャリア・パスポート」のねらい

- 児童生徒が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐ。
- 教師は、「キャリア・パスポート」の記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資する。

和歌山県「キャリア・パスポート」の様式例ワークシート

様式例ワークシートは、「1年間のふりかえり」、「学校行事等」、「ふるさとでの体験的な活動」の3つの場面のワークシートがあります。各学年で3枚程度を蓄積します。

- 「1年間のふりかえり」では、自分の1年間を「学習」、「生活」、「家庭・地域」の各項目で振り返り自己評価したり、次年度の目標を考えたりします。
- 「学校行事等」では、事前にめあてを記録し、学校行事等の集団活動を通して自分の成長や可能性、互いの良さ等を振り返ります。
- 「ふるさとでの体験的な活動」では、事前にめあてを記録し、地域の魅力に気づき、勤労や職業等に関して学んだことを振り返ります。

活用上の留意点

① 形態

- ・ 各ワークシートはA4判に統一し、「1年間のふりかえり」はA4判両面印刷とする。

② 管理

- ・ 個人情報保護及び紛失防止の観点から、「キャリア・パスポート」の管理は、原則、学校で行う。

③ 学年、校種の引き継ぎ

- ・ 学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行う。
- ・ 校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うが、小学校、中学校間においては指導要録の写しなどと同封して学校間で引き継ぐことも考えられる。

④ 指導上の配慮

- ・ 特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒等、特に特別な配慮を要する児童生徒については、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積とすることができる。
- ・ 「キャリア・パスポート」は自己評価、学習活動であり、そのまま学習評価とすることは適切ではないことに留意する。